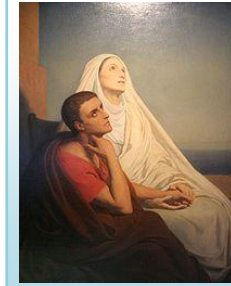


5月4日

モニカ Monnica

(332~387)

～聖アウグスティヌスの母～



「聖アウグスティヌスと

モニカ」

アリ・シェフェール

1846年

北アフリカのタガステ(チュニジア)で生まれた彼女は、キリスト教徒の両親に育てられ、ローマの官吏(異教徒であったが死ぬ一年前に受洗)と結婚し、3児の母となる。

父が死んだとき息子の一人アウグスティヌスは18歳であったが、父の死後、彼は信仰を捨て、マニ教に心奪われる。彼女はそんなアウグスティヌスをキリスト教へ回心させるため、祈りと涙と絶食をもって、自らを捧げた。そのため、キリスト教信者の母親の模範とも言われる。

さて、アウグスティヌスは母親の反対を押し切りローマへ遊学していくのだが、彼はローマからすぐにミラノへ行き、そこでミラノの司教アンブロシウスの説教を聴く。そして彼は、マニ教を捨て、キリスト教の求道者となる。

モニカは心配のあまりミラノまでアウグスティヌスを追いかけてやってきたが、彼がキリスト教の求道者となったことを聞いて、喜びに満ち、「死ぬ前におまえがキリスト信者になると信じています」と息子に言った。

そして三年後、アウグスティヌスは洗礼を受ける。それを知ったモニカは喜び踊り、勝利を歌い、涙ながらの祈りを受け入れてくださった神に感謝した。

その年、アフリカへの帰路の途中、病気が原因

で彼女は56歳で天に召される。

死ぬ間際に、彼女は外国で死ぬことを残念に思いながらも、「私はどこに葬られてもかまいません。その代わりに、主の祭壇の前で私をいつも思い出してください。」と言い残した。アウグスティヌスはその著書「告白」の中で母モニカの美しい思い出を描き、また彼女を深い信仰と強さの持ち主であったと記している。

なお、聖公会ではアウグスティヌスはオーガスチンと英語読みで表記されているが、8月28日に祝日となっている主教教会博士オーガスチンがここで出てくるオーガスチンのことである。そしてカトリック教会においては、聖モニカの記念日は8月27日、つまり息子の祝日の前日になっている。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは聖徒たちの愛と献身を通して教会を築き上げられました。わたしたちはみ前に記念する主のしもべ、モニカのために感謝いたします。どうかその模範に従うわたしたちを聖霊によって強め、今もこの世にあって聖徒たちとともにあなたの栄光を見て楽しむことができますように、み子イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン